

フォスタリングチェンジと リフレクティブフォスタリングの これまでとこれから

シンポジウム

～みんなで考える里親養育の未来～

FCP：フォスタリングチェンジ・プログラム

RFP：リフレクティブフォスタリング・プログラム

9月15日（火）開催 時間：16:00～18:00

場所：東京都新宿区戸塚町1-104 早稲田大学
早稲田キャンパス7号館2階 205号室



日本に英国のFCPが導入されて10年。関係性を重視し、アタッチメント理論と社会的学習理論に基づく実践的支援をするプログラムとして全国に広がり、里親の養育力向上と関係構築に大きく貢献してきました。一方で子ども・里親を取り巻く環境の複雑化に伴い、子どもの心の内面やメンタライジング（心で心を思うこと）に着目するRFPへの期待も高まっています。本シンポジウムでは導入10周年を記念し、FCP開発者のキャシー氏、キャロライン氏、RFPの展開を牽引するニック氏を招聘。開発の経緯や展開を聴き、参加者の皆様とともに日本の里親養育の未来を考える機会としたいと思います。

参加形式

会場参加（早稲田大学）
又は オンラインzoom参加

登壇者

- ・キャシー・ブラッケビー氏（FCP共同開発者）
- ・キャロライン・ベンゴ氏（同上）
- ・ニック・ミッジリー氏（ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン）
- ・上鹿渡和宏（早稲田大学）
- ・上村宏樹（コーディネーター）

主な内容

■ 16:00～18:00

FCPとRFPのこれまでとこれから
シンポジウム

～みんなで考える里親養育の未来～

参加費

5,000円

※事前振込 / お申込み後自動返信メール
にて詳細が届きます。

定員

120名

（先着順・定員になり次第締切）

対象者

FCP、RFPにご興味がある方

※オンライン（Zoom）でも
参加費は一律 5,000円

お申込みはこちら



15:30 受付開始

16:00 FCPとRFPのこれまでとこれから
シンポジウム

～みんなで考える里親養育の未来～

18:00 終了

※食べ物を持ち込みはご遠慮ください。
お飲み物をご持参いただけます。ペットボトルや
タンブラー（キャップ、蓋付きのものに限る）

キャシー・ブラッケビー氏 (Kathy Blackeby)

FCP開発メンバー / 児童・思春期メンタルヘルス専門家

英国モーズレイ病院にて「フォスタリングチェンジ・プログラム (FCP)」の初期開発に従事。日本導入初期には数年にわたり来日し、ファシリテーター育成やトレーナー指導を直接牽引した。長年、里親の養育スキル向上と良好な親子関係構築に向けた実践的支援を行っている。



キャロライン・ベンゴ氏 (Caroline Bengo)

FCP開発メンバー / 臨床心理士

モーズレイ病院等での豊富な臨床経験をもとにFCPの開発・体系化に参画。日本の導入期にもトレーナーとして定期的に来日し、プログラムの日本定着と人材育成に大きく貢献した。行動的アプローチを用いた里親支援の第一人者として国内外で指導を展開している。

ニック・ミッジリー氏 (Prof. Nick Midgley)

ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (UCL)

子ども・若者の心理療法学教授

UCLとAnna Freudの共同研究組織「子どもの愛着と心理療法研究ユニット」部門長。子どもと家族を対象とするメンタライゼーションに基づく心理療法の開発・研究を牽引し、Sheila Redfern博士らAnna Freudの専門家と「リフレクティブ・フォスタリング・プログラム (RFP)」の開発・効果検証に携わってきた。『子どものためのメンタライゼーションに基づく治療—時間限定的アプローチ』(米国心理学会)の共著者であり、英国で実施された里親向け養育支援プログラム研究として最大規模のランダム化比較試験「Reflective Fostering Study」の研究代表者を務めた。現在は、早稲田大学の研究チームとともに、RFPの日本の文化や実践への適応に取り組んでいる。



FCP フォスタリングチェンジ・プログラムとは

フォスタリングチェンジ・プログラム (FCP) とは、1999年にイギリスのモーズレイ病院で開発された、里親向けの専門的な養育プログラムです。虐待などでトラウマを持つ子どもとの愛着関係を築き、問題行動に適切に対処するための実践的スキルを学びます。アタッチメント (愛着) 理論や認知行動理論をベースに、子どもの良い行動を褒めて伸ばす方法や、効果的な限界設定 (指示やタイムアウトの技術) を習得します。子どもとの関係性を重視し、さらに里親自身のストレス管理を盛り込んでいる点も大きな特徴です。通常、少人数のグループで週1回3時間のセッションを計12回行います。講義だけでなく、ロールプレイや家庭での実践報告を通じて、参加者同士で支え合いながら学びを深めます。

日本でも導入が進んでおり、子どもの年齢に応じた「通常版 (2~12歳未満)」と「思春期版 (12~18歳未満)」が、各地の里親支援機関や自治体で実施されています。里親の養育不安を和らげ、不調による委託解除 (不調) を防ぐための有効な支援ツールとなっています。

RFP リフレクティブ・フォスタリング・プログラムとは

リフレクティブ・フォスタリング・プログラム (RFP) は、子どもと家族のメンタルヘルスを専門とする英国の慈善団体「アンナ・フロイト」の専門家チームによって、2016年から開発が進められてきた、里親および親族里親を対象とする専門的なグループ支援プログラムです。本プログラムの大きな特徴は、心理学的概念である「メンタライジング」を中核に据えている点にあります。虐待やネグレクトを含む複雑なトラウマを経験した子どもは、ときに、強い拒絶や攻撃性など、養育者にとって理解したり対応したりすることが難しい行動を通して、苦痛やつらさを表すことがあります。メンタライジングとは、目に見える行動だけにとらわれず、その「向こう側」に目を向け、自分や他者の行動の背景にある感情、願い、意図、ニーズなどの心の状態を想像し、理解しようとする力を指します。RFPでは、里親が、子どもの行動の背景にどのような考えや感情があるのかについて、好奇心をもって考えることを促します。同時に、「なぜ私は今、こんなにイライラしているのだろう」「なぜこのことが、これほど心配になるのだろう」と、一歩引いて自分自身の心の反応を振り返ることも大切にします。このように、子どもの心と自分自身の心の双方に目を向けることによって、里親と子どもの間に生じる感情的な衝突や、関係の悪循環を防ぐことを目指します。

お問合せはメールにて : fcp@muyuju.org

フォスタリングチェンジ・ジャパンのHPはこちら

<https://fosteringchanges.jp/>

